

快適な環境を目指して (臭気対策を考える)

医療法人 社団回心会 回心堂病院

はじめに

現状(問題点)

加齢と機能低下により1日の大半をベッドで過ごす為、ベッドサイドケアと環境整備は患者のQOL向上において重要である。

臭いは患者の羞恥心を招き、快適な生活環境を阻害する。
家族は療養環境に不安を抱く。

入院患者の9割がオムツに依存するため、オムツ交換時には、病棟全体が不快な臭気に包まれる。

消臭スプレーの使用や、換気だけでは完全な臭いの排除につながっていない。

研究内容

1 期間

平成19年7月4日 ~ 9月30日

2 方法

- (1) 乳酸菌飲料にて腸内環境を整え便の臭いの抑制効果を調査
- (2) 排泄ケア方法を改善し病棟の臭いの変化を測定

方法 (1) 乳酸菌飲料調査

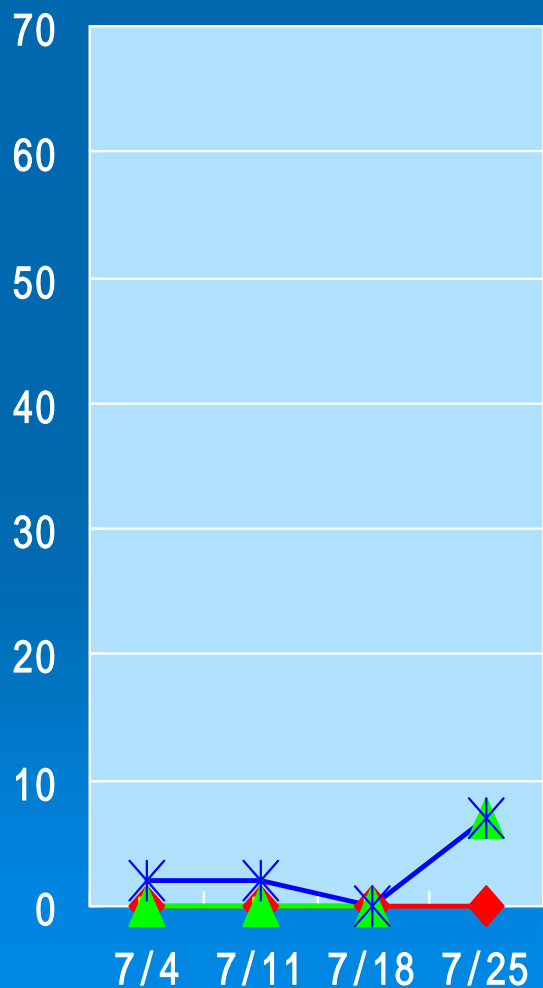
対象者: 食事摂取量にむらのない5名

氏名	年齢	性別	疾患名	ADL	食事形態
N.S	90y	F	脳梗塞、尿路感染症、貧血	全介助	全粥ミキサー食
M.T	95y	F	多発性脳梗塞	全介助	ミキサー食
S.M	92y	F	脳梗塞、狭心症、尿路感染症、貧血	全介助	ミキサー食
I.N	58y	F	脳梗塞	自力端座位可	常食
M.S	87y	M	脳梗塞、偽痛風、貧血	全介助	全粥ミキサー食

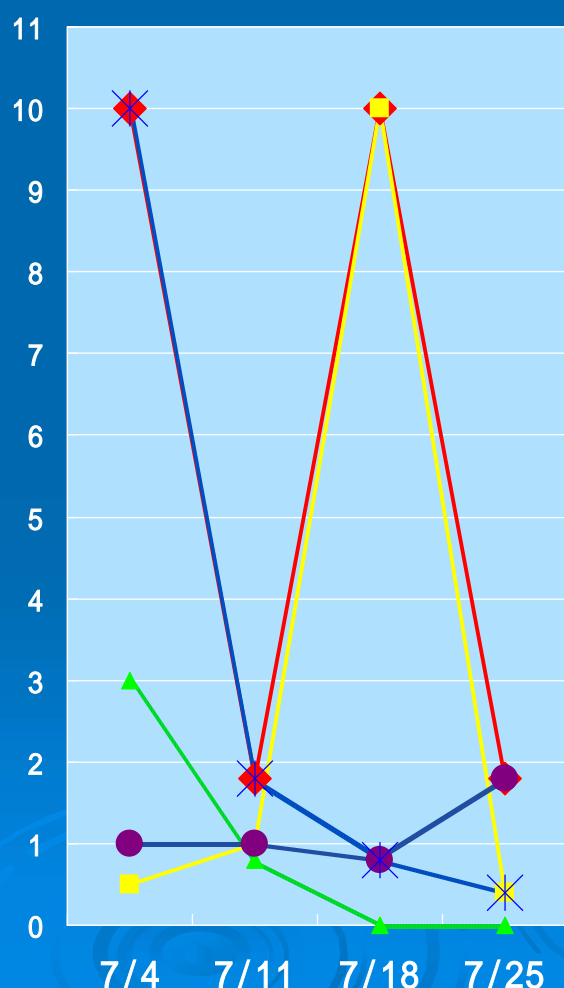
方法（1） 乳酸菌飲料の飲用後の結果

腸内細菌の善玉菌を増やす効果のある飲料「メーカー提供の乳酸菌飲料125ml」を3週間毎日摂取する。

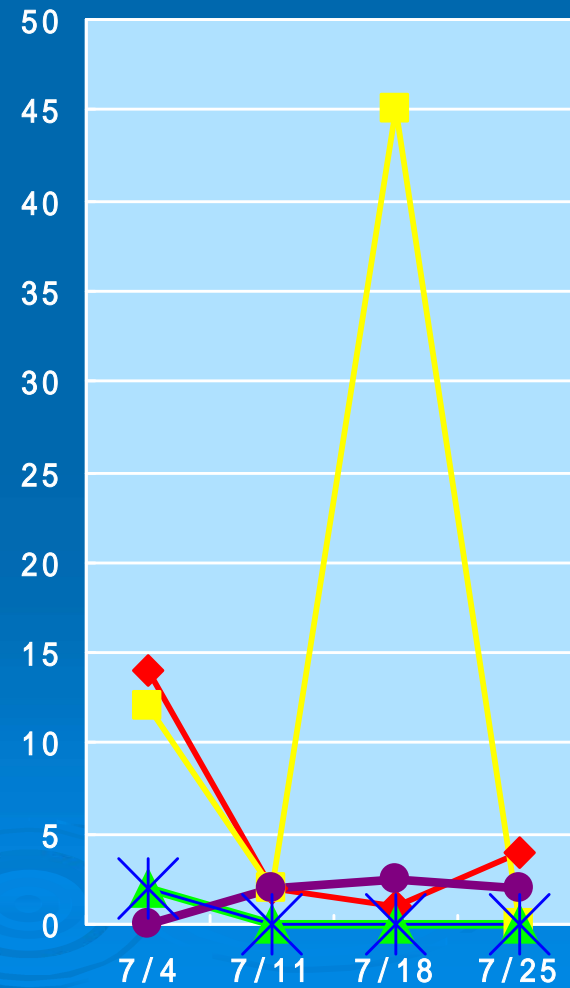
メチルメルカプタン



アミン類



アンモニア



方法 (1) 乳酸菌飲料調査の考察

入院中の全ての患者の腸内環境を整え、
便自体の臭いを抑えるということは困難

高齢

ADL低下

抗生物質の投与

複数の疾患をかかえている

視点を排泄ケア(オムツ交換)に移し、
ケアの見直し、改善を行うことにした。

方法 - (2) 排泄ケアの改善

実施場所：A病棟1階

汚物入れのゴミ箱の蓋をかぶせる蓋へ改良する。

便の付いたオムツはすぐビニール袋に入れ密封する。

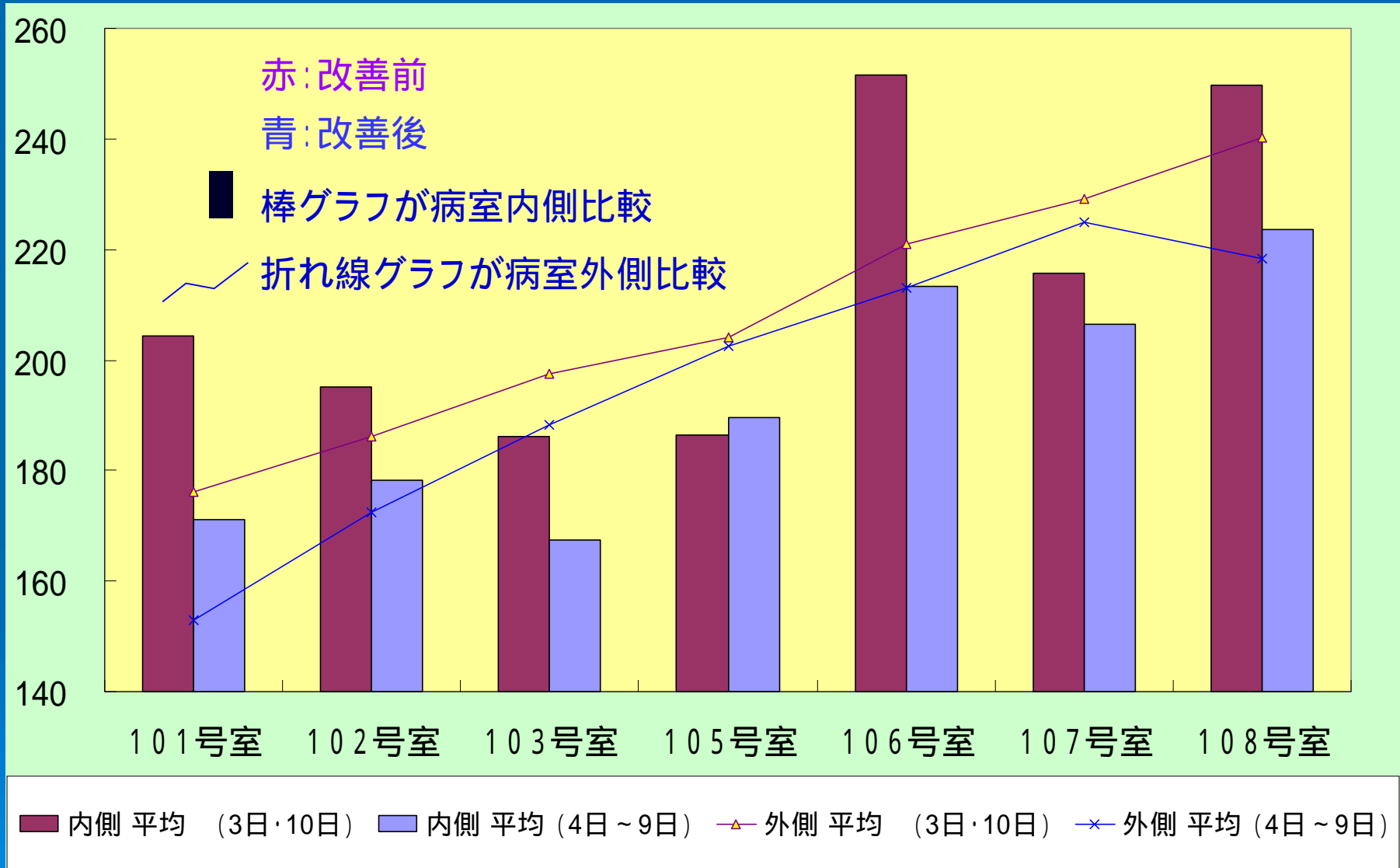
汚物を仕分けする作業は必ず病室内で行う。

ゴミ箱と併せて使用するバケツは必ず蓋付きとする。



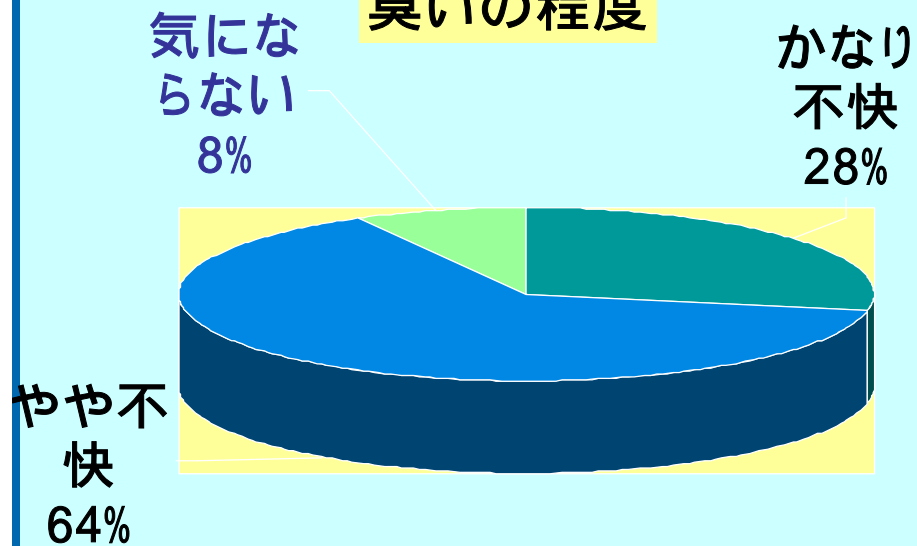
改善策 ~ の実施前、後に臭い測定器を用い
データを比較した。

方法 (2) 結果 病室内側と外側の平均値

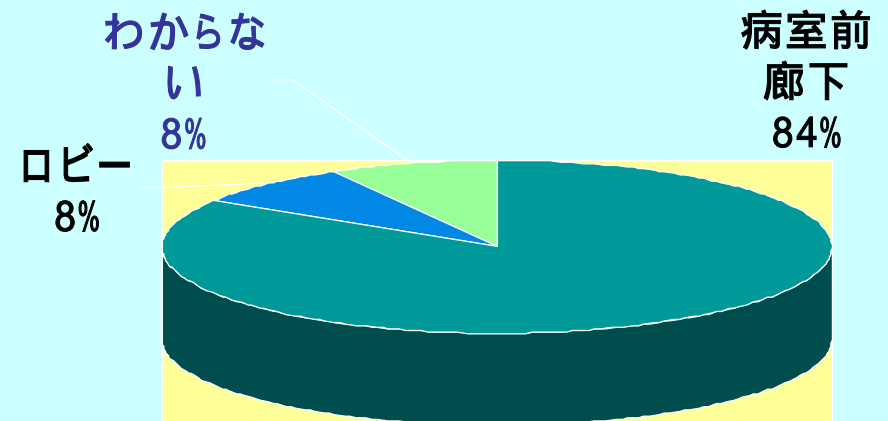


方法 (2) 結果 アンケートの調査結果

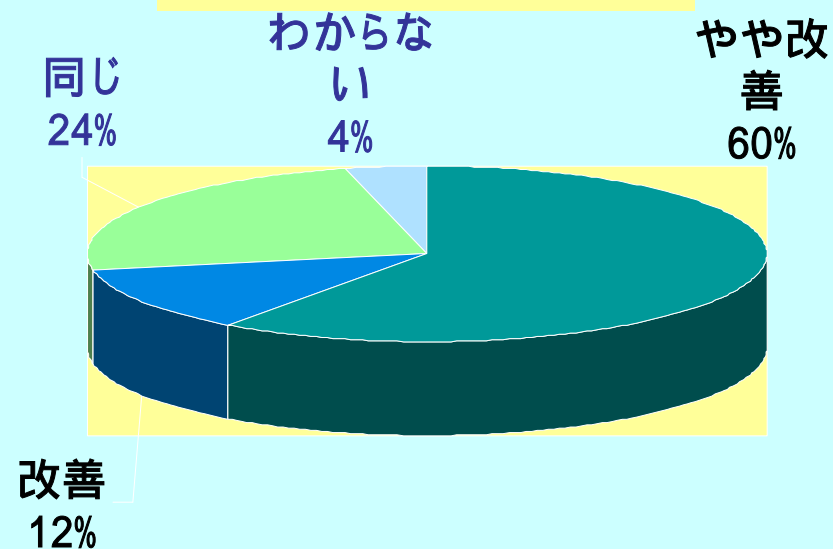
臭いの程度



特に気になる場所



臭いは改善されたか？



まとめ

臭いの元となる物を密封し、空気中へ臭いの分子を拡散させない事が不快な臭いを残さない事につながると証明された。

不快な臭いが改善することにより、患者にとって快適な療養生活となりそれは、患者の家族の安心にも繋がる。

今後もこの看護部の理念である「患者の安全で安楽な快適な生活を提供する」を実践していきたい。

引用、参考文献

1) 五味常明: 心と身体の研究室

<http://www.wakiga.jp/sub/nioi.html>

2) フィトンチッド・ドットコム (植物性、消臭スプレーと空気清浄機販売サイト) <http://fitontid.com/>

3) 折茂 肇 監修: 「高齢の特徴と日常看護のポイント」
メジカルビュー社

4) 土屋健三郎、松田明子 他: 「看護研究のまとめ方」
第2版 医学書院

使用機械

ニオイセンサ

(XP - 329 新コスモス電機株式会社)